

令和7年 9月19日(金)

あさひの日だまり

NO.19

辰野町立辰野東小学校 文責 片桐

～祖父母参観日がありました～

祖父母の皆様ご来校ありがとうございました

9月12日(金)に祖父母参観日がありました。天気が心配でした。もし雨模様だとグラウンドが駐車場として利用できず、祖父母の皆さんに遠くから歩いてもらわなくてはならないからです。当日はやや雨模様でしたが、グラウンドも周りのかたいところなら車を入れられそうでしたのでグラウンド入り口も開けました。

参観は2時間目からでしたが1時間目の前から来校して下さる方も何人かおられました。「こんなに早く来ちゃったんですがどうしたらいいですか?」と尋ねて下さいましたので「どうぞ教室へ入って授業をご覧ください」とお伝えしました。担任の先生はびっくりしたかもしれませんが、子どもも先生もきっと素の姿で授業をしてくれたことと思います。

祖父母の皆さんと子どもたちが一緒に裁縫の授業



コールドと金管バンドが休み時間にミニコンサート



先生方の参観日を反省する会で、来年は1・2時間目通して参観時間にする事も考えられると思いますという意見

がありました。祖父母の皆様にゆっくりと参観していただくにはそういう方法もあるかもしれません。先生方と来年へ向けてまた計画を立てたいと思います。

ご家庭によってはお父様やお母様が来校していただく場合も見られました。一人のお母様が「おじいさんおばあさんは遠くて来られないの」とお話しして下さいました。遠ければ遠いほどおじいさんとおばあさんはお孫さんのことをいつも気にかけておられるに違いありません。子どもはそういうおじいさんやおばあさんの存在をちゃんと分かっています。子どもたちにとってはおじいさんとおばあさんの思いに寄り添ってお母さんがそこへ来てくれていることがとても嬉しかったはずです。ご家族の皆様、ご来校本当にありがとうございました。

参観が終わった後、祖父母の皆様と懇談する時間がありました。会の中で校長の講話をさせていただきました。内容を記しますのでお読みいただけたら幸いです。

夏休み中にですね、同年会がありまして、受付でですね、今日は宴会の席の中ではかつてのニックネームでお互いを呼びあおうという提案がありました。

私は同年の仲間と気兼ねなく好きなことを言い合ってお酒が飲めるとしてとても楽しみに会場へ足を運んだんですね、しかしですね、ニックネームで互いに呼びあおうという提案を聞いた瞬間にちょっと暗い気持ちに

かがやきの皆さんがカフェを開店



なってしまったんです。

小学校時代私は「ヒロ」と呼ばれていました。片桐 広文のヒロです。それはどう呼ばれていても別にいいんです。私を暗い気持ちにさせたのはそう呼ばれていたころの私のクラスでの立場だったんです。

私は忘れ物の有名人でした。忘れ物の無い日はないくらいだったように思います。字が汚いことでも有名人でした。読めない字だとよく言われました。勉強もそう得意ではありませんでした。九九を最後まで暗唱できず、クラスで友だちと2人だけ、担任の先生に「もういいよ」と言われて九九をマスターしないまま二桁のかけ算へ進んだことを覚えています。

そんな私でしたので、こういう考え方自体がどうかとも思いますが、クラスの中の私の位置はだいたい下の方だなあと小学生ながら自分なりに思っていました。

「ヒロ」という呼び名にはそういう背景がくっついていてなんだか暗い気持ちになったんです。ということは、その頃の私はきっと少し暗い気持ちで毎日小学校へ通っていたんだろうと思うのです。

家に帰っても両親から小言を言われていました。「友だちに忘れ物する人なんかいないだろう？」「こんな汚い字で恥ずかしい！」「こんな点数の人は他にはいないだろう？」しばしば周りと比較されて自分のダメさを自覚させられていたように思います。

一方、祖父母と過ごす時間には安心感がありました。祖父母は私の至らない点を指摘しないからです。まったく言わないわけではありませんが、だいたいの時はニコニコしながら煙草のおいしさや縫い物の話、作物のできっぷり、近所の家で起きた変化などを取りとめなく話してくれました。私は聴くともなく聞きながら、そこに寝転んだり、テレビを観たりしながらゆっくり流れる時間に安心して身を任せていました。

そう考えると、私にとっておじいちゃんとおばあちゃんの魅力は「安心感」であったのだと思います。私のわずかに残った「自信」を決して打ち砕かない「安心感」がおじいちゃんとおばあちゃんと過ごす時間の中にはあったのだと思います。

私ちょっと考えてみたんです。どうして歳を重ねると「安心感」を与えられるようになるのかなということ。私は歳を重ねてくると次第に「無理を知る」ということになるからじゃないかと思うのです。「無理を知る」というのは私の造語ですけど、世の中には自分ではどうにもならないことがいくつかあると思うのです。変えることができないことといってもいいと思うのですが。若いうちはそういうものを何とかしたくていろいろ思い悩んだりしてストレスを感じる人が多いように思うのです。

自分ではかえられないもの。例えば「他人の気性」「お天気具合」「過去の出来事」等がそれです。年の功というのはそういうものと上手に付き合っていかなければならないことなのだと思うのです。上手にやり過ごす力ともいえるかもしれません。祖父祖母にとっては私の忘れ物や、できの悪いテストは所詮「過去の出来事」だったのです。「お前にはまだ楽しい未来がずっと広がってるんだぞ」などとは言いませんでしたが、一緒にいるとそういう「安心感」のある空気の中にいられたのだらうと思うのです。

場合によるとご両親から見ると「安心感」は「甘やかせ」というようにも見える場合もあるかもしれません。私の家族もそういう感覚のずれでしばしばトラブルを起こしていました。今でもまだそういう感じになってしまう場合があります。この微妙な関係はなかなか難しいですが、どうぞうまく乗り越えて下さい。お願いします。

私の近所の友だちがもうだいぶ前におじいさんになりました。家をたずねるとまずはお孫さんがかけ出てきます。夏祭りの日、私の一つ上の尊敬する先輩は、私と家内が道路の隅でひっそりと花火を見ている横を孫の家族と本当にうれしそうに縁日へ出かけていきました。

家内とよくそういう場面の話をします。私たちにはそういうときが来るのかしら。無理かもしれないね。というのが毎回の話の結びです。結婚を考えられる年齢の二人の子どもがいますが、私も家内も孫の話題を出すことを遠慮しています。そうして、家内は一匹の猫を飼い始めました。いま孫のようにかわいがっています。

みなさん、祖父母参観にこうして来られるということは本当に幸せなことです。私は本当に羨ましいです。

祖父母の皆様の「安心感」は子どもの居場所です。家族の宝です。社会のかけがえのない財産だと思います。どうぞ今の幸せを満喫するためにご健康でいてください。皆様のご健康を心からお祈りしております。